

## 20<sup>キ</sup>圏内の避難指示が解除



▲2月23日、住民との意見交換会



▼3月8日、安倍首相が来訪

都路地区の一部（福島第一原発から半径20<sup>キ</sup>圏内）に出されていた避難指示が、4月1日午前0時に解除されました。

避難指示の解除にあたっては2月23日に地区住民と国、市の意見交換会が開かれ、住民からのフォローアップ除染などの要望を受けた政府が「復興に向けた施策をしっかりと行っていく」と回答。赤羽原子力災害現地対策本部長から解除の方針が示されました。

これを受け、3月10日の政府の原子力災害対策本部会議で、4月1日に避難指示を解除することが決まりました。3月11日には政府の担当者が市役所を訪れ、富塚市長に解除の指示書を手渡しました。

3月8日には安倍首相が田村市を訪れ、富塚市長および地区住民と懇談。市の現状などについて意見交換した後、富塚市長が安倍首相に復興施策や損害賠償の格差解消などについての「要望書」を手渡しました。



▲3月11日、解除の指示書を受領

## ふるさとへの熱い思いを共有



第25回東京ふねひき会総会が2月23日、東京のホテルラングウッドで開かれ、会員と市関係者の約140人が出席しました。

総会では役員改選が行われ、会長の再任および新役員2人の選出を決めました。

懇親会では懐かしい友との再会を喜び、思い出話に花を咲かせたり、ふるさと産品が当たる抽選会に全員が参加したりと会場は大いに盛り上がりました。また、会場の一画で行われたふるさと産品の販売も好評で、新鮮野菜など全てが完売しました。名残惜しい雰囲気の中、最後は全員で「がんばっぺ、ふねひき」を三唱し閉会しました。

## 大雪にも負けず総会を開催



ふるさと常葉会の総会が2月9日、東京都の中野サンプラザで開かれました。当日は関東地方でもまれな大雪が降り、足元が悪いにもかかわらず約60人が出席しました。初めに26年度の事業計画などを決め、役員改選では白岩常志会長が再選されました。引き続き開かれた懇親会では歌や踊りが披露されるなど和やかなムードが続き、最後は万歳三唱で閉会しました。

## 手と指を使って脳を活性化



大越ふれあい学級は2月28日、学習会および閉講式を行いました。

閉講式に先立ち最後の学習会では、福島県レクリエーション協会の佐藤喜成氏による手や指・腕を使ったレクリエーションを楽しみました。学級生は童謡や懐かしい歌に合わせて行う左右非対称の動作が、いつの間にか一緒に動きになってしまい思わず吹き出すなど、会場は大きな笑いに包まれていました。

## 手作りのスイーツに挑戦

都路公民館と合同事業の常葉公民館成人講座「バレンタインお菓子作り」が2月11日に行われました。

遠藤とく子さんの指導の下、午前と午後の2回にわたりチョコレートブッセとクイックトリュフを作りました。調理場にはお菓子の材料の甘い香りが充満し、参加者は胸ときめかせながら挑戦するなど楽しい時間を過ごしました。



## 心地よく爽やかに踊る



冬場の健康づくりを目的とした「さわやか民謡教室」が2月6日と13日の木曜日、滝根公民館で行われました。

滝根星会の石上レン子さんが講師を務め、延べ30人の市民が参加しました。港町十三番地や初恋列車など、おなじみの歌謡曲に合わせて踊りました。参加者は時間を忘れて、寒さを吹き飛ばすかのように元気に体を動かして、爽やかな汗を流しました。

## 役立っています「宝くじ助成事業」



大越町田子屋地区の田子屋三匹獅子保存会では、小学生男子が秋祭りや文化祭行事に参加して三匹獅子舞を披露するなど、三匹獅子の文化を継承しています。今回、宝くじの助成金を活用して約百年以上前から使っている獅子頭や小太鼓を補修し、衣装などを購入しました。

※コミュニティ助成事業は、(財)自治総合センターが宝くじの普及広報事業費として受け入れる受託事業収入を財源に、コミュニティ事業に助成を行い、健全な発展を図るとともに、宝くじの普及広報を行っています。宝くじは広く社会に役立てられています。●整備した備品（獅子頭、小太鼓、衣装、横笛、法被、収納箱）